



大阪部会(第 43 回)

日 時: 2015 年 5 月 9 日(土) 18:00~20:05

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 43 回の大阪部会の出席者は 15 名。今回は、ふだん東京部会に出席しているメンバーが三名参加し、大阪取引所からも一名の参加者があった。

(1)まず、野間(同志社大学)から、経済教育ネットワークの最近の活動報告があり、4月11日に開かれた初めての名古屋部会の様子や、16日の東京部会の内容などが紹介された。東京部会での大きな話題は、日本取引所と共催してきた「先生のための夏休み経済教室」のプログラム確認であった。大阪では8月6日に高校の部、8月7日に中学の部が実施される。

(2)次に河原和之氏(立命館大学講師等)から、最新の「地理と経済の融合教材」が報告された。すでに世界地理については、一昨年来インド、ブラジルなど多くの国々についての教材が作成され、今年には日本の地理についても経済の視点からみたものが現在作成されつつある。今回は主に、特異な「飛び地」である和歌山県北山町を取り上げて教材が作成されている。飛び地になった経緯、筏師など林業関連がほとんどだった産業構造、それを活かした観光産業開発などに加え、「じゃばら」という柑橘の販売をITルートと健康への関心をテコに急成長させた戦略などが紹介された。なお、「先生のための夏休み経済教室」で、名古屋、大阪、東京それぞれの開催場所に合わせた「地理と経済の融合教材」が報告される予定である。

(3)山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)からは、前回紹介された、2014年度大学入試センター試験の問題に加えて、自身が作成した試験問題が配付・解説された。その多くは、需要・供給曲線を労働市場、スポーツ、金融市場、外為市場、交通市場などに広げたものであり、大学入試にもよく出題されるような定番の問題を、さまざまにアレンジした問題例である。

(4)最後に、東京から参加した埴枝里子氏(府中東高等学校)の授業実践がふたつ報告された。ひとつは「社会の幸せを経済で考える～横軸から需給曲線を読む」と題されたものであり、生搾りジュースの需要曲線、供給曲線を、生徒への発問から導き出したうえで、「お得感」をキーワードに、消費者余剰、生産者余剰の考え方にまで導こうとしたものである。

もうひとつは「時間の経済学～あなたはアリ?それともキリギリス?」と題した授業の学習指導案である。利子の意味、時間の価値、時間割引率などの概念を教えることを目指しており、数値例が多く使われている。出席者からは、とくにゼロ金利・デフレの現代では、生徒に利子の概念を理解させることが非常に難しいという点、アリよりもキリギリスを支持する生徒が多くなる傾向にある点、この授業が公民・現代社会の授業のどこに位置づけられて何を指すのかという点などが指摘され、活発な議論が交わされた。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2015年7月4日(土)、時間は18:00~20:00、場所は未定。